

【児童へのお話】

いよいよ3月に入りました。3月はいよいよ、6年生の卒業の月となります。1年生はよくお世話してもらいましたね。2年生から5年生は、学校行事や委員会で頑張る6年生を見てきたと思います。先週の6年生を送る会でお話したとおり、6年生は自分のすばらしい卒業のために、1年生から5年生は6年生に気持ちよく番町小を卒業してもらえるように、残りの日々をしっかりと過ごしてください。

さて今日は、「ひな祭りのあれこれ」について、みつつお話しします。

ひとつめ。今日3月3日は、ひな祭りの日ですね。ひな祭りの日は別名、桃の節句とも言われています。昔からこの時期には、悪い空気が外から入ってきて災いをもたらすとされていたので、桃の花がもっていると言われる魔よけの願いを込めた行事として伝えられました。この桃には、「百歳（ももとせ）」まで生きられますように、という長生きの願いも込められているそうです。

ふたつめ。ひな祭りといえば、ひな人形ですね。昔は、魔よけの意味から、紙やわらなどの草で作ったひな人形を川に流して、災いを避けるおまじないをしていたそうです。これを「ひな流し」と呼び、今でも日本の風習として残っている地域があるそうです。皆さんの家にある立派なひな人形は、流しちゃダメですよ。

最後みつつめ。ひな壇飾りの一番上にいるのは、お内裏様とおひな様ですね。二人とも手に何かを持っていますが、何だか知っていますか？

お内裏様は「笏（しゃく）」を持っています。笏は昔の男性の貴族が持っていたもので、いろいろな儀式の順番や忘れてはならない注意事項が書かれているメモを、笏の後ろにこっそりと隠し持って使っていたこともあるそうです。おひな様は「檜扇（ひおうぎ）」を持っています。昔の女性は、自分の顔を人に見せないことが嗜みだったので、扇を使って顔を隠すことが多かったそうです。今でいうマスクの役割でしょうかね。

ひな祭りのみつつのお話、皆さん知っていましたか？ひな祭りの呼び方や風習は他にもたくさんあります。興味のある人は、ぜひ調べてみてください。番町の皆さんには、知らないことや分からないことを自分から積極的に調べて知識を増やすとともに、それを使ってよく「考える子」になって欲しいと思います。一日ひとつずつ、成長していきましょう。

今日は、「ひな祭りのあれこれ」についてお話ししました。

【本講話について】

いよいよ令和6年度の最終の月となりました。本日を入れて残す登校日数は、1～4年生が15日、5・6年生が16日のみとなります。校長室の予定表ホワイトボードを見ると、卒業関係と年度末関係の記載がとて多く目立ちます。いよいよ進級・進学の時です。

私は「はてな？」と思うことがあると、調べずにはいられないタイプです。昔は関連の書物を探して、今はネットで得られる情報を取捨選択して、知りたいことを追究して、子どもたちに伝えています。「へえ」とか「そうなんだ」という言葉は、好奇心の現れです。様々な知識を得ることを楽しめる子どもを増やしていきます。